第十一編　牧園町の発展

一　まちづくりの基本目標

町政推進の基本目標として、基本理念を「町民がたすけあってつくる、さわやかで豊かな自然と共生する町」として、次の目標を定め、これを実現するための積極的な町政の展開を図る。

一　人と自然が調和する生活環境づくり
二　地域の活力を生かした産業づくり
三　健やかで幸せなやすらぎのある里づくり
四　文化・教養の香りがただようまちづくり

二　まちづくりの将来像

㈠　牧園町のまちづくり

二十一世紀には、個性の調和した社会が新たに創り出される。余暇時間の増大や生活様式の多様化など新しいライフスタイル（生活様式）が求められる。また、高齢化社会においては心身のリフレッシュ（新鮮さの回復）や自己実現のための空間づくりなども要求される。

こうした時代志向の中、より豊かで、快適な生活を追求していくには、社会情勢の潮流を的確にとらえ、新たな発想にたった町民一丸となっての〝ちから〟が必要となってくる。そのためには、本町の特性を再認識し、「ブランド化」（独自性強調の銘柄化）することによる、地域産業の振興を図り、他市町村との交流を推進し、活性化を進めていくことである。幸い、本町には、他地域に類のない温泉群や国立公園霧島連山などの豊かな自然資源があり、また、神話の里霧島もある。

これらの恵まれた資源を生かし、二十一世紀に向けて自然との調和を図りながらブランド化を目指していく。更に、訪れる人の滞在と交流を通し、自然との語らいや保養と人間性回復の地として、町内外にＰＲしていく。

㈡　牧園町の顔づくり

本町には、霧島国立公園、和気清麻呂史跡、安楽・妙見温泉、丸尾温泉、霧島温泉郷などの豊かな自然と、霧島国際音楽祭などの優れた文化的催しもあり、年間約一四〇万の人が訪れている。このほかにも、あまりに身近

やさしさが人に響く町—牧園町（基本構想施策の大綱）

基本理念

町民がたすけあってつくる、さわやかで豊かな自然と共生する町

町はオーケストラ
地球はオーディエンス
世界に響け
凛（リン）・輪（リン）・緑（グリーン）・シンフォニー

人と自然が調和する環境づくり

- 自然と環境の保全（恵まれた自然と共生できる環境づくり）
- 土地利用（地域特性をふまえた秩序のある土地の有効利用）
- 住宅施設の整備（自然と調和した快適な牧園づくり）
- 道路・交通基盤の整備（地域を拓く総合的道路体系の確立）
- 上下水道の整備（計画的な処理施設の普及）
- 情報通信網の整備（情報ネットワークの普及と促進）
- 公園・緑地・水辺の整備（水と緑を生かした公園づくり）

地域の活力を生かした産業づくり

- 農業の振興（アグリビジネスとしての農業の展開）
- 林業の振興（長期視点からの森林資源の保全と活用）
- 商業・サービス業の振興（商業空間と文化空間のつながりによる魅力づくり）
- 観光の振興（二十一世紀をとらえ情報発信地としての展開）
- 工業の振興（地場産業の育成と企業誘致の促進）
- 地熱開発（交換熱水等の有効利用）

健やかで幸せなやすらぎのある里づくり

- 保健・医療の充実（心と体の健康づくり）
- 社会福祉の充実（心のふれあう福祉の増進）
- 環境衛生の充実（快適で住みよい環境づくり）
- 防災体制の整備（安心して暮らせるまちづくり）

文化・教養の香りがただよう町づくり

- 学校教育の充実（豊かな人間性を育む教育の推進）
- 社会教育の振興（地域が育む生涯学習の推進）
- 地域文化の振興（芸術文化で交流を促進）
- スポーツ・レクリエーションの振興（健やかで潤いのあるライフスタイルの推進）
- イベント・人材育成（情報発信で国際交流を促進）

であるため見すごされている資源も数多くある。

二十一世紀に向かっては、本町の隠れた資源に目を向け、それを掘り起こし、磨いていくことが大切である。

そのためには、住民が誇りを持ちうる牧園町の「顔」を持つことが必要である。霧島競馬、霧島高原太鼓まつり、サイクルジャンボリーなどの各種イベントがあるが、これらを生かしながら、今までと違った発想で独自の歴史や文化を見いだし、これらを地域内外に向け、発信していくことが、牧園の顔づくりにつながっていくのである。

㈢　牧園町の人づくり

二十一世紀の牧園町を担っていくのは、個性と創造力を備え、たくましさを身につけた町民である。「地域づくりは人づくりである」といわれている。今後の厳しい社会情勢の中で産業振興を図り、生き生きとした牧園町を築き上げていくには、幅広い創造性と高度な技術力を身につけた人材が、各分野において求められてくる。そのためには、教育機関の拡充も必要であるが、日常の生活の中で次代を担う人材を育成していくことが大切となってくる。人的交流が人材育成に大きな成果を上げている今日、道路交通網など「物の道」は整備されやすい環境にあるが、今後はこれに併せて多くの情報を運ぶ「人の道」も整備し、牧園町を情報発信源としたいわゆる「現代のシルクロード」を創り出すことが必要である。

三　計画実現の方策

この計画は、二十一世紀を目指して新しい牧園町をつくっていくための町民共通の目標と、これを達成するための基本的な施策を明らかにしたものである。

これらの計画を実現するためには、広報活動と町民との対話による理解と協力、また、国・県・各種民間団体、更には議会、関係市町村との協調のもとに町民と行政が一体になってその推進を図る。そして、計画の推進において、よく検討し、プロジェクト推進の内容の調整や追加を行い、計画の進捗状況を的確に把握し適切な進行管理を行う（平成三年三月作成「牧園町総合振興計画書」参考）。

四　計画実現への歩み

(一)　庁舎建設本格的に着工

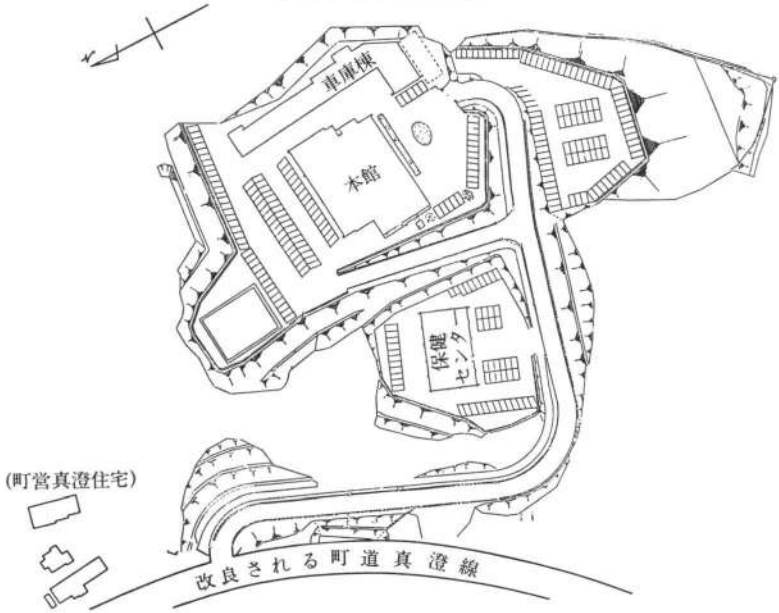
長期間にわたり慎重な審議がなされ、平成元年二月二十八日の臨時会において議員全員による、庁舎建設調査特別委員会の中間報告があり、全会一致でこれを承認、庁舎建設にかかる予算が、平成二年六月議会で可決された。平成二年度中に土地造成、取り付け道路は完了予定である。建物については、平成二年度中に着工し、平成四年三月には新庁舎が完成する予定である。

(二)　高齢化社会への対応

本町の高齢化率は、昭和六十年度現在で、一七・三パーセントを占め、今後、二十一世紀へ向けて、高齢者の人口増加と高齢者の果たす役割は、ますます大きくなってくる。

高齢者の知恵と貴重な経験は、地域の活性化に大きなインパクトを与えるものと思われる。

庁舎建設敷地造成見取り図



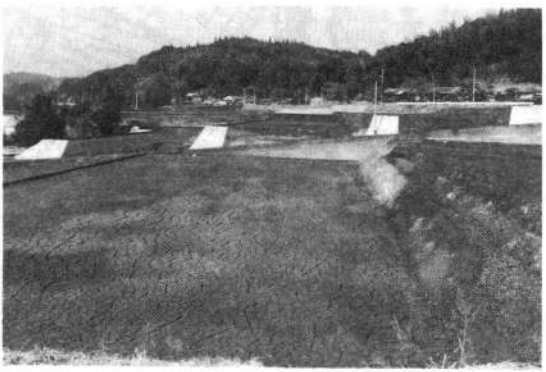
このことは、若者と高齢者、また子供と高齢者が共存し、ふれあい学びあいを通して高めあい、生きがいに満ちた豊かな社会を築くものである。

ふれあいの場

ゲートボールコートのオープン

(三)　土地基盤整備事業の促進

本町の農業は、依然として経営規模の零細化、耕地利用率の低下、労働力の高齢化、婦女子化などの課題を抱え、産業として自立が困難な状況にある。今後は、この限られた農地の有効活用により、①収益性の高い農業生産、生産基盤の整備、②生産体制の組織化、③流通加工の対策、④特産物産地の形成、などを推進することによる経営の安定を図ることが基本となる。



基盤整備の進んだ農地

㈣ 地場産業の育成と企業の誘致

1 地場産業の振興

牧園町が長期的に自立発展するためには、地域独自の資源を利用する地場産業の役割が極めて重要である。そのためには、農産物、花、しいたけ、温泉などを活用した新しい分野の産業を振興させることが必要となる。

2 企業の誘致

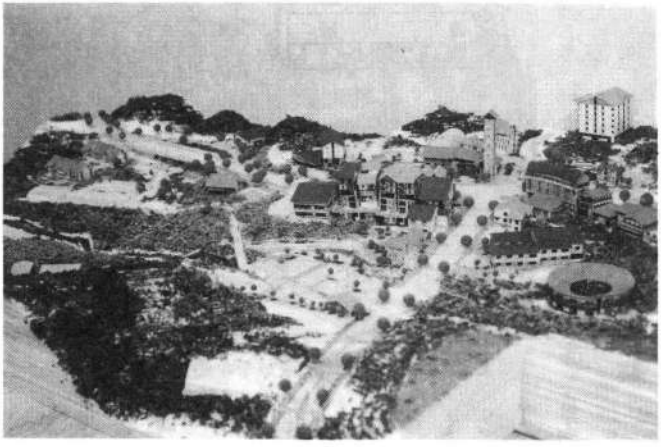
本町の人口の増大を図り、若者の雇用の場を創り出すためにも、企業誘致を積極的に推進する。そのためには企業の立地を促すための優遇措置の一層の充実を図るとともに、用地の確保、交通体系の整備、人材の育成などの基盤整備を図り、企業が進出しやすい環境整備を行うことが要件となる。

3 地熱開発（交換熱水などの有効利用）

地熱開発については、地下の熱水を利用することから、新しい国産エネルギーとして有望視されている。開発計画では、平成二～七年に発電所が建設される予定である。

㈤ 霧島温泉郷丸尾地区街並み整備計画

霧島の自然と調和した街並みづくりを目指して、霧島



街並み構想

温泉郷事業協同組合（代表大坪和）を組織して、「霧島温泉郷丸尾地区街並み整備計画」が平成二年十月に完成、「観光霧島」の発展に寄与しようと進められている。

主な内容は、①公園スポーツ施設整備、②国道・歩道等整備、③各店舗の共同協調建て替え、④イベント広場、⑤コーナープラザ等である。

㈥　霧島国際芸術の森の整備計画

鹿児島県総合基本計画の第一期実施主要事業に「霧島国際芸術の森の整備」計画が盛り込まれた。内容並びに実施計画の概要の主なものは次のとおりである。

1　内　容

県民の芸術文化活動や音楽を通した国際交流の促進を図るとともに、国内外の高い評価を得ている霧島国際音楽祭を更に発展させるため、霧島国際音楽ホールを中心に、霧島地域の自然を生かした文化ゾーンの整備を、地元町及び民間団体などと連携して進める。

2　構想の概要

①　霧島国際音楽ホールの建設

②　交流及び人材育成の環境整備

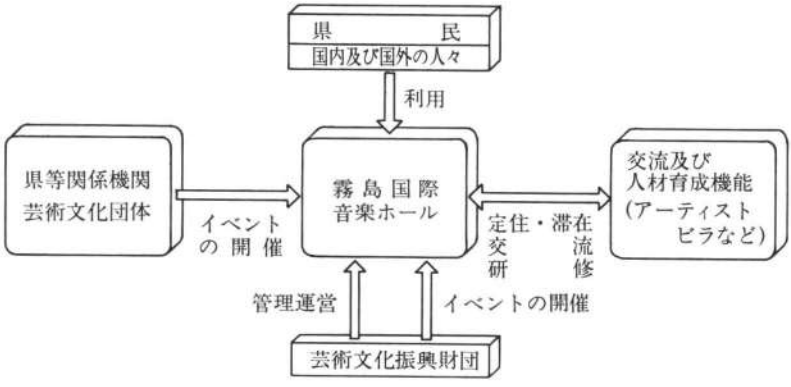
③　文化的な街づくり

④　芸術文化振興財団の設立・運営

⑤　芸術文化団体との連携・育成

これにより、平成三年度から平成五年度までの三か年間に、牧園町に念願の音楽ホールが建設されることとなった。

霧島国際芸術の森関連図



牧園町では、町内小・中学校にグランドピアノを購入するなど対応を進めている。

(七) 霧島高原乗馬クラブ

昭和四十八年国民休養地整備事業の中で開設され、現在まで大霧島観光協会によって運営されている。

乗馬クラブはだれでも気軽に楽しめる場所として、地元及び観光客を含め年間七〇〇〇人以上の利用者がある。特に女性の占める割合が高く、七〇パーセントとなっている。

また、乗馬クラブにおいては、少年馬術教室、会員乗馬教室等も実施している。ここで練習している牧園高校馬術部は、平成元年宮崎県で行われた、全国馬術大会の障害飛び越しで団体優勝し、平成二年も全国二位の輝かしい成績を残している（平田・東郷・宮内組）。

とびうめ国体上位入賞者

成年三位　長命信一郎　　六位　倉田　伸利

少年三位　平田　康弘　　五位　東郷　正也

観光という面からも「見る観光」に「体験する観光」がプラスされ、今後、乗馬人口は伸びていくものと考えられる。そのニーズにこたえるため、平成二年度から同五年度まで、霧島高原にふさわしい乗馬の施設づくりが行われ、現在近代的なクラブハウスが新築されている。

(八) 牧園中学校陸上部の活躍

牧園中では、生徒の気力・体力の充実を目指し、部活動は活発である。中でも陸上部の活躍はめざましく、平成二年度姶良地区中学校駅伝大会で男子優勝、女子準優勝の好成績で、県大会では、男子四位、女子六位のアベック入賞を果たし、

牧園中学校駅伝大会

指導者山形正秋も監督賞を受けた。また、南日本クロスカントリー大会（輝北町）でも、男子は上位四人を含む十位以内に六人、女子も十位以内に三人入賞の好成績であった。

(九) 大関霧島の初優勝

平成三年一月二十八日の朝、「南日本新聞」は、前日の郷土力士大関霧島の初優勝を次のように報道した。

初優勝を果たし、菜穂子夫人（右）と、娘の会梨佐ちゃんを抱き、賜杯を手にする霧島＝両国国技館

霧島悲願の初優勝　大相撲初場所

96場所目　井筒から61年ぶり

初土俵から96場所目で悲願の初V―。東京・両国国技館での大相撲初場所千秋楽の二十七日、大関霧島（三一）＝本名吉永一美、井筒部屋、姶良郡牧園町出身＝が横綱北勝海を倒して14勝1敗で初優勝した。

初土俵から96場所目は、隆の里の86場所を大幅に更新する〃スロー初優勝〃記録。三十一歳九ヵ月での初優勝も、昭和三十三年に年6場所制になってからでは最高齢となる。

井筒部屋からの優勝力士は昭和五年春場所の豊国以来六十一年ぶりで、鹿児島県からは五十九年名古屋場所の若島津（現松ヶ根親方）以来。

霧島は昭和五十年春場所初土俵を踏み、五十九年名古屋場所新入幕。軽量で目立たなかったが、独特のウエートトレーニングでめきめき力をつけて、昨年春場所後に大関昇進。史上1位の「遅咲き大関」と話題を呼んだが、来場所は横綱に挑戦となる。